

# 目 次

## 第 I 部 子ども食堂が教えてくれたこと

子ども食堂にとって地域とのつながりはどのような意味を持つのか 豊田市東山ぐうぐう食堂の活動を手掛かりに	早津 美帆…………… 7
外国につながる子どもにとっての子ども食堂 —外国籍の子どもが多い地域における子ども食堂が担う役割—	國井 理央……………28
子ども食堂的な居場所が社会に必要とされる理由は何か 場の多様性・役割の多様性から	藤本 涼花……………49
コロナ禍の子ども食堂のフードバンク化 寄付する企業、フードバンク、社協、行政などの マッチングアプリ型仕組みの必要性	竹中 陸人……………65
よさこいという名のコミュニティ —犠牲を払ってまで継続する訳—	山手 一輝……………82
連携で作る子ども食堂 —ほんわか食堂のつながりに着目して—	岸田 彩里…………… 107
地域における子ども食堂活動を規定する ゲートキーパーとしての社会福祉協議会	植野 航史…………… 132
子ども食堂に寄付する人は何を求めているのか —感謝の声をやりがいに—	上條 人生…………… 148
子ども食堂利用者の宗教イメージと主催者の配慮 —名古屋市内で天理教が運営する3つの子ども食堂を対象に—	梅田 藍子…………… 167
食材寄付文化の発展に関する研究 —しもいちばわいわいこども食堂とバロー・丸小青果の連携から—	安松 亮…………… 189

## 第Ⅱ部 みんなの居場所を守っていきたい

なぜこうも居場所が求められるのか

アフターコロナ時代の子ども食堂のあり方を求めて

目黒紗季子…………… 215

コロナ禍でつながるということ

～愛知の子ども食堂・シェアリング桑名・  
太陽の家の事例から～

成谷 世那…………… 226

なぜ人は居場所を求めるのか

コロナ禍に注目される子ども食堂の役割

キムソヒョン…………… 237

コロナ禍における配布型子ども食堂の居場所機能

—「居場所なきフードパントリー」からの脱却の道—

岩瀬 圭佑…………… 255

フードパントリーが切り開く子ども食堂の新たな形

可能性と課題、その先にあるもの

子安 祐人…………… 264

子ども食堂の方向転換を促すもの

—社会変動に対応していくためには—

小出 美雨…………… 274

子ども食堂を社会的共通資本に

コロナ前後の子ども食堂

米山 佳汰…………… 285

企業と子ども食堂、両者が相思相愛になるために

どうつなぐ・いかにつながるか

土路生太郎…………… 293

## 第Ⅲ部 これから取り組みたいこと

2021年度活動報告と2022年度取り組む課題

東園 大輝…………… 303

2021年度「子どもの居場所づくり」参加報告

北村 初音…………… 309

今年度の活動調査と次年度調査に向けて

内田 康介…………… 318

今年度のボランティア参加記録と次年度の活動提案

桑原 伽奈…………… 326

今年度の参加報告と次年度調査に向けて

～今年1年またはこれまでの振り返りから  
今後、私が調査したいことを探す～

池谷 明子…………… 332